

道徳教育推進拠点校の取組から

1 副読本活用による「道徳の時間」を要とした道徳教育の充実

成果

- ・学習意欲が高まる資料が多く、児童生徒から多様な意見が出るなど、子どもたちが資料にじっくりと向き合う姿が見られた。
- ・教師が学年内あるいは学年を越えて話をしたり、指導方法や展開について協議する等、教材研究に熱心に取り組むことができた。
- ・朝の学習での教師による「副読本」の読み聞かせ等により、道徳の時間以外でも児童が道徳的価値に触れ、生き方を考えるきっかけが得られた。

課題

- ・道徳の資料の特質を生かせるようなより深い資料分析や、発問・板書・資料提示の工夫のために、「教師用指導書」を活用するなど授業方法のさらなる改善が必要である。
- ・1冊を複数学年で使用するので、児童生徒の発達段階と指導内容を考えて、各学年の年間指導計画を作成する必要がある。
- ・他教科、他領域との有効な関連の検討が必要である。

2 家庭・地域と連携した道徳教育の推進

成果

- ・「道徳通信」の発行や「親子読書」を行うことを通して、学校が進めている道徳教育や授業への保護者の関心を高めることができた。
- ・資料の内容と重なるように地域の人材を活用することにより、児童生徒がより身近な問題としてとらえることができた。
- ・地域フォーラムを開催することにより、学校・家庭だけではなく、地域も含めて力を合わせようとする機運が生まれた。

課題

- ・オープンスクールを通じて、副読本を活用した授業公開や道徳をテーマとした学級懇談会等、家庭や地域の方々と一緒に道徳教育について考える機会をさらに増やしたい。
- ・保護者や地域の方々の参画を得た学校行事を計画し、家庭・地域と協力しながら道徳的実践の場や機会を意図的につくりたい。
- ・小・中が互いに連携した道徳教育の研究をさらに進め、家庭や地域との連携につなげていく必要がある。

道徳教育推進拠点校とは

平成23年度は県下10地域で小学校・中学校各1校、計20校を指定し、副読本の効果的な活用を図りながら、以下の内容で道徳教育の実践研究を行いました。

- (1) 副読本の活用による「道徳の時間」を要とした道徳教育の充実
- (2) 「道徳の時間」の実践研究の推進
- (3) 家庭・地域と連携した道徳教育の推進

提言1 「道徳の時間」の授業力の向上 ～指導方法の工夫改善を図る研修の充実～

道徳の時間の特質を考えた授業づくり

「道徳の時間」では「道徳的実践力」(心)を育成
言葉や行動の指導にならないように留意する

資料分析のポイント

「道徳上の問題」に焦点化した資料の読み(国語の読み取りとのちがいを)
「誰が変わったか」「何がきっかけで変わったか」「どこで変わったか」への着目
資料のタイプを考えた資料の読み

「主人公が道徳上の問題で変化する資料」「信念が主人公の生き方を支える資料」

授業構想のポイント

主人公の心の揺れ・変化・高まりを考えさせる発問構成と板書の工夫
主人公になりきって(自己を投影させて)考えさせる授業展開

提言2 道徳の基盤づくり ～連携を核とした道徳教育の充実～

系統性・連続性を重視した道徳の授業交流

校種間(幼稚園、小・中・高・特別支援学校)のつながりの重視
小1プロブレム・中1ギャップ解消のきっかけに

「副読本」を橋渡しとした家庭・地域との連携

オープンスクールの授業公開、「学校だより」等、道徳教育の情報共有
「家庭読書デー」の実施等、家庭で道徳のことが話題になる場づくり
PTA研修資料での「副読本」の活用等、「大人も学ぶ道徳」の推進

提言3 兵庫の特色を道徳教育に生かす ～「兵庫ならではの」道徳教育の推進～

「兵庫型」体験教育を生かす

「協力」「自然愛護」等、道徳の内容を意識した体験活動の取組
ただし、「道徳の時間」で直接的な体験活動を行うのではないことに留意!
体験活動で感じたことを「道徳の時間」の資料に基づく話し合いに生かす

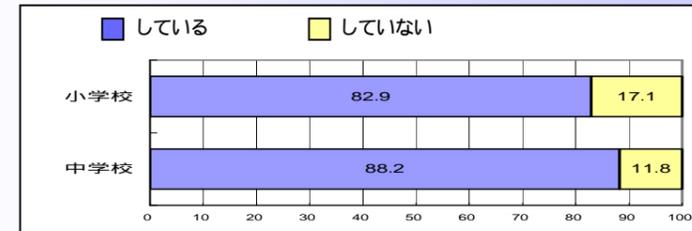
震災の教訓を生かす

「副読本」の阪神・淡路大震災を題材とした資料の有効活用
「命の大切さ」「助け合い」等、受け継がれてきた「心」を伝える指導の工夫

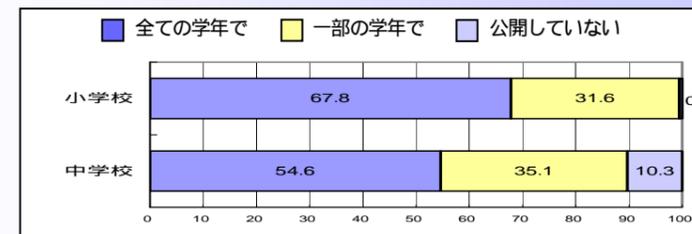
道徳教育推進状況調査結果

(平成23年度2学期末現在の状況：一部抜粋)

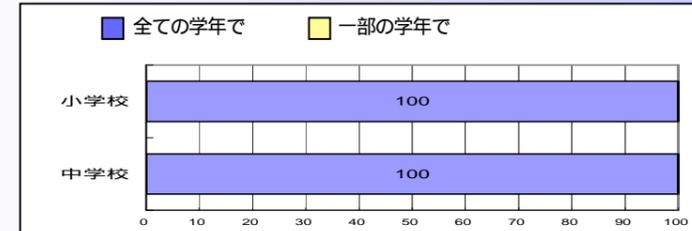
Q1 授業研究等により、「道徳の時間」の指導の工夫をしていますか?



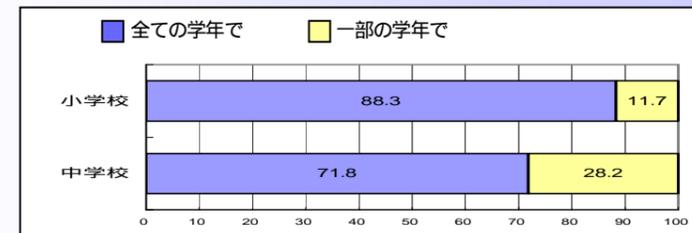
Q2 「道徳の時間」の授業公開を行いましたか?



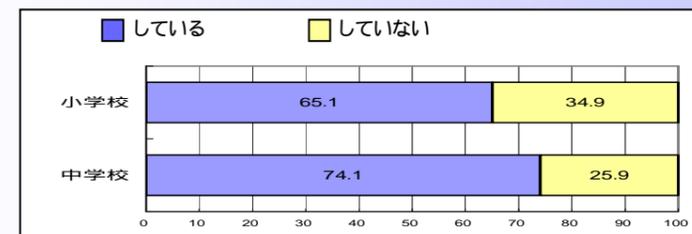
Q3 「道徳の時間」で副読本を活用しましたか?



Q4 「道徳の時間」の他に副読本を活用しましたか?



Q5 小・中が連携して道徳教育を推進しましたか?



調査にある副読本は、「兵庫版道徳教育副読本」である。

調査結果の概要

- ・8割以上の学校で「道徳の時間」の特質を生かした授業となるように指導過程や指導方法等の工夫を行っているが、道徳の授業公開を全ての学年で行っている学校は、全体の約6割である。
- ・全ての学校で「道徳の時間」に副読本を活用している。また、「道徳の時間」の他に副読本を活用している学校は、小学校の約9割に対して、中学校では約7割である。